

# 関係人口創出・拡大のための 対流促進事業 取組事例集

地域にもたらされる効果と関係人口づくりのポイント



"The population with  
strong relationship to  
the areas."



内閣官房地域未来戦略本部事務局  
内閣府地方創生推進室

# 本事例集について

## 本事例集の目的

- 人口が減少する中で、国全体の持続可能性を高めていくためには、都市と地方が相互に補完し合う共生関係を強めることが重要です。そのためには、特定の地域に継続的に多様な形で関わる「関係人口」を活かして都市と地方の間での人の循環を創っていく必要があります。
- 関係人口の創出・拡大を図るためには、関係人口と地域をつなぎ、地域内で活動のコーディネート等を担う主体となる「中間支援組織」が重要な役割を果たします。（※次ページに中間支援組織の役割を記載）
- 本事例集では、このような“内閣府が支援した中間支援組織による取組”について、中長期的な観点で関係人口や地域に対してどのような好影響をもたらしたのか調査し、取組のポイント等を一連の流れとしてまとめています。
- 地方公共団体の方は、関係人口の創出・拡大に取り組むことによる地域への波及効果を知るという観点、中間支援組織の方は、段階に応じた取組に対する意識や姿勢、工夫点等を自身の取組に活かす観点により本書をご活用いただけますと幸いです。

## 構成

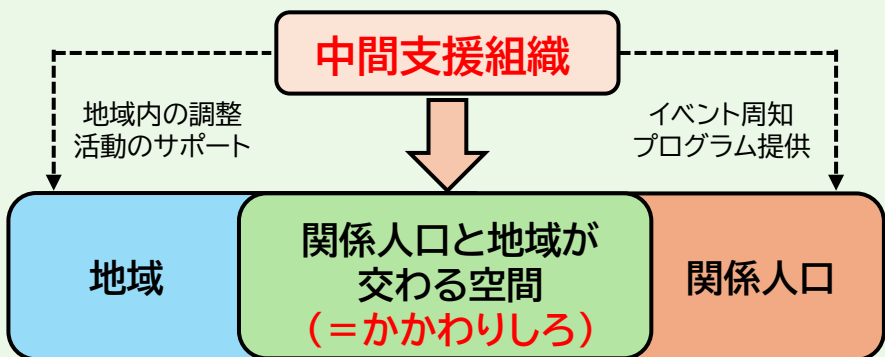
- 本事例集の前半部分で関係人口の捉え方や関係人口の創出・拡大に取り組むことによる成果等を総括的に整理するとともに、後半部分で事例を見開き形式にてまとめています。
- 事例の1ページ目では、事業の概要や、事業実施後に地域や関係人口にもたらされた好影響等の成果を記載しています。2ページ目では、「①取組実施前」「②モデル事業期間」「③その後」の3段階に分けて取組のプロセスを整理し、各段階での工夫点や、成功・横展開につながった要因等を示しています。
- 最終ページでは事例の一覧を掲載するとともに、取組の詳細が確認できるURLを併記しています。

## 中間支援組織の役割について

○中間支援組織は、関係人口と地域をつなぎ、地域での活動が円滑に進むよう調整等を行う存在であり、その役割として次のようなものが考えられます。

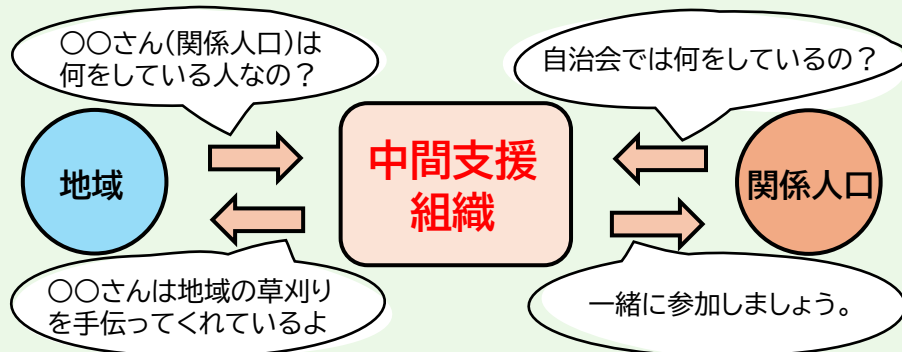
### 「かかわりしろ」をつくる

イベントの開催など、関係人口に対して地域と関わる機会を提供することで、両者が交わる環境をつくり、想いの共有や取組の連携を促す。



### 通訳する/コーディネートする

関係人口と地域住民等との間に入って通訳者となることで、両者の想いを分かりやすく伝えて誤解を防ぎ、円滑な関係の構築をコーディネートする。



### 伴走する/蓄積して発信する

地域住民等に寄り添い、各種相談に乗って地域内での取組を支え続ける。関係人口とのつながりや取組の知見を蓄積し、必要なときに活用/提供する。

関係人口と地域が互いに主体性をもって協働する状態につなげる

# 関係人口がもたらすもの

なぜ関係人口  
づくりに  
取り組むの？

- 関係人口は、移住には至らずとも、“地域内で様々な役割を担うことができる存在”です。
- 関係人口と地域との双方がかかわり合うことで、お互いが取り組む意義や目的を達成するとともに、その効果が次なるかかわりの原動力となっていきます。

人口が減少しても、地域住民や関係人口など多様な人材が力を発揮し、影響し合いながら地域の活力も高まっていくことが期待できます。

## ○ 地域側の観点

### ① 魅力の再発見、地域の意識変容

**例** 市民コミュニティ財団が人と人をつなぐ活動の一環として体験型のプログラムを生み出す過程で自分たちの地域の魅力に気づき、活動に活かすなど、ポジティブな変容に繋げている。



### ② 新たな地域づくりの担い手確保

**例** 都市部企業に勤める者がマーケティング経験を活かし、副業として自治体のふるさと納税事業を伴走支援している。



### ③ 地域に不足するスキル等の補完

**例** 都市部のクリエイターが手仕事を得意とする地域住民らとイベントや作品を一緒につくることを通じ、地域で複数のビジネスが生まれた。



## ○ 関係人口側の観点

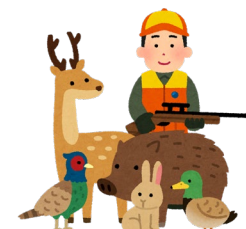
### ① 暮らしの選択肢の広がり

**例** 援農活動等を通じて、自身の進路の選択として地方を意識した仕事や生活を実現する人が増えている。



### ② 自己実現の機会等の拡大

**例** 狩猟に興味のあった関係人口が、地域の鳥獣被害対策活動に携わることを通じて、地域貢献と同時に自己の成長へと繋げている。



### ③ スキル等を活かした活躍

**例** 自身の経理経験を活かし、地域団体に不足していた会計業務を担うようになり、地域貢献しながら交流を深めている。



# 関係人口のつくり方・増やし方・深め方

どのように関係人口づくりに取り組むの？

- 持続可能な関係人口の創出・拡大を図るためには、地域側の視点と関係人口側の視点が存在することを認識するとともに、その重なりを意識することがポイントです。
- 以下の表に、双方の視点の重なりと本事例集への掲載事例の位置関係を整理したので、参考にしてください。

		関係人口側の視点		
		① 暮らしの選択肢の広がり	② 自己実現の機会等の拡大	③ スキル等を活かした活躍
地域側の視点	① 魅力の再発見、地域の意識変容	No.1 ezorock	No.2 みちのくトレイルクラブ	No.3 山学ギルド
	② 新たな地域づくりの担い手確保	No.4 雨風太陽	No.5 三河の山里コミュニティパワー	No.6 新川田籠環境資産保全研究会
	③ 地域に不足するスキル等の補完		No.7 えらぶ島づくり事業協同組合	No.8 つながる地域づくり研究所

## 事業の実施後に共通して見られる取組成果について

- ・関係人口にとって、魅力的な関わり方や取組に対する当事者意識等をベースとした地域との深いつながりが生まれており、必然的に地域を再訪し続ける関係人口が創出されている。
- ・地域にとって、関係人口の受入れや何かと一緒に取り組むことを通じて、モチベーションの向上や外部人材に対する意識の変化につながり、地域住民等を巻き込んだ取組へと発展する傾向にある。
- ・上記成果の延長線上において、関係人口が地域に移住するケースや、地域農業の労働力不足を解消するケース等、結果的に目に見える形での多様な取組成果を生んでいる。

## 上記成果を生んだ要因・好要素について

### ✓ 関わる物語の演出

関係人口が地域に関わり続ける理由が明確化される取組をベースとすることで、地域に対して自身の身元を一定程度証明することに繋がり、自然な形で溶け込めている点(ロングトレイル・フェス・狩猟など)。

### ✓ 集まり方のデザイン

地域外存在である関係人口に対して、地域内に入るための準備や関わり場の場づくり等を中間支援組織が丁寧にサポートすることで、地域住民と関係人口が同じ方向を向いて活動に取り組める環境が設計されている点。

### ✓ 変化を取り込む

中間支援組織が、それぞれの地域の状態に応じて関係人口と地域の双方にとって無理のない関わり方を示しつつ、時間の経過や環境の移り変わりに伴い取組を柔軟に変化させている点。

# 関係人口や地域への波及効果

関係人口づくりはどんなことにまで効果が及ぶの？

- ・関係人口が鹿児島県の島内で農業インターンシップに参加。
- ・援農活動に従事することで、**農繁期における農家の労働力不足を解消。**
- ・北海道や京都など他地域と連携し異なる農繁期に人材を融通し合う**産地間連携にも発展。**

(えらぶ島づくり事業協同組合)

- ・都市部の親子が現地滞在型の農業・漁業体験等に参加。
- ・上記の体験過程を子どもの自由研究の題材とすること等を通じて、**関係人口の親子が「食育」を考えるきっかけとなり、教育的な観点からも有意義な成果に繋がっている。**

(雨風太陽)

- ・都市部企業と地方自治体・地域を**組織と組織で繋ぎ**、関係人口が副業として地域に関与。
- ・**組織同士がタッグを組むこと**でより**強固で継続的な関係**を構築。
- ・**関係人口と自治体職員の関係が深まり、関与の質向上や自治体内での取組の活性化に繋がる。**

(つながる地域づくり研究所)

- ・フェスの準備から当日まで、**関係人口と地域の参加者を丁寧にサポート。**
- ・参加者の**主体性を引き出す仕掛け**により、**オンラインでも熱量のある関係**を構築。
- ・イベント後に地域を訪れるなど、**リアルな関係性が生まれた。**

(ezorock)

- ・既存事業を土台に、**地域と日常的な関わりを重ねながら信頼関係を構築。**
- ・継続して通うプログラムにより**参加者の主体性を形成。**
- ・活動が**近隣地域へも波及し、「おたがいさま」の関係が広がる好循環を創出。**

(三河の山里コミュニティパワー)



イベント後も交流が継続 (ezorock)



親子で漁業体験 (雨風太陽)



農業インターン (えらぶ島)

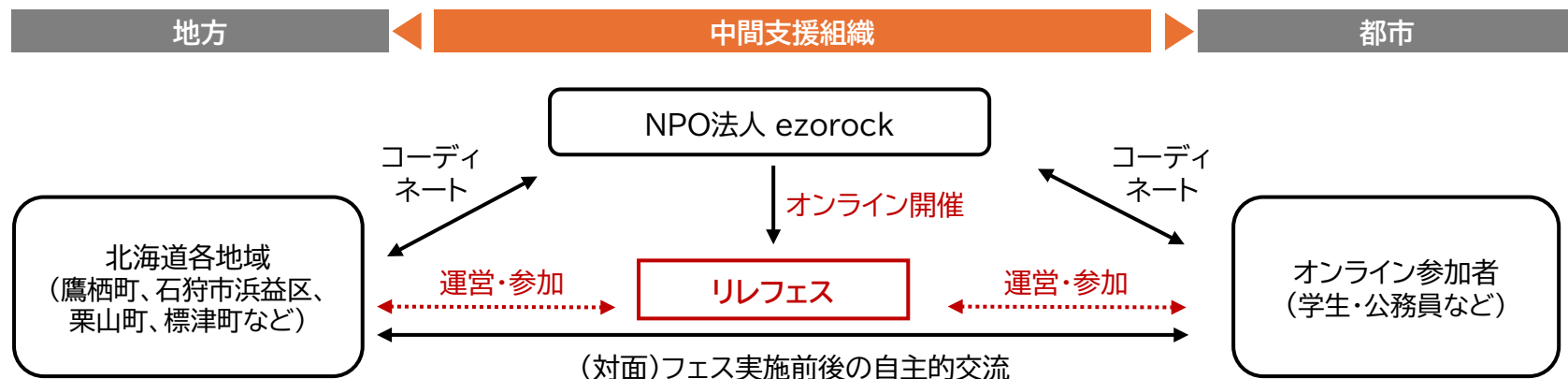
事業名	オンライン関係人口フェス「リレーションズフェス(通称:リレフェス)」からはじまる関係人口プラットフォーム構築事業
団体名	特定非営利活動法人 ezorock
実証地域	北海道(石狩市、鷹栖町、栗山町、標津町など)



## 事業概要

参加者と地域で活動する人々がバーチャル空間で関係人口についての互いの取組状況を紹介し合うイベント「リレーションズフェス」を中心に、オンラインと現地での活動を循環させる関係人口創出モデルを構築。実行委員会方式を採用し、受入地域と都市住民が準備段階から参画することで当事者意識を醸成。オンラインではありながら温かな繋がりが生まれ、継続的な地域間連携を実現。

### <事業スキーム>



## モデル事業後の取組成果

### 1. 事業の実施状況

継続的にリレフェスを開催。毎年約100名が安定的に参加している。自治体・地域団体・関係人口を介して様々な場で紹介されている。イベント後は実際に地域を訪れる若者や、地域同士の繋がりが生まれるなど、関係人口創出につながっている。

### 2. 波及効果:地域にもたらされた好影響、関係人口に起こった効果

参加者同士の交流のきっかけになっている。イベント時の知見の共有だけではなく、訪問や支援など持続的かつ具体的な地域間連携も生まれている。参加した関係人口(学生・社会人・公務員含む)が自治体職員と一緒に発表するなど、当事者意識を持って対等な立場で地域に関わるようになっている。

## ポイント

「オンラインなのに人の顔が見える」温かいコミュニティ・繋がりの醸成。

## オンラインから始まる顔の見える関係づくり

### ○ 実施前段階

移動が制限される冬季にリレフェスを開催することで、関係人口と受け入れ地域が一年を通して関係を途切れさせることなく深めるサイクルを構築。参加者の当事者意識を高めるため、準備段階から双方の主体的な参加を促している。



### ○ モデル事業

イベント当日も、主催側からの一方的な情報発信ではなく、参加者も一体となつてつくりあげる側面を重視。オンラインイベントヴァーチャル・オフィスアプリ「oVice」を活用し、参加者相互の交流を促進。一過性の交流で終わらず、リアル環境での交流・活動につなげている。



### ○ その後

参加者が市町村の垣根を超えて交流することで、イベント後も相互に訪問・支援するなど、都市住民のみならず、道内の関係者間でもリアルな横の連携が生まれている。また、参加者の中から運営側へ回る人材を募ることで事業の担い手を安定的に確保している。



## 集める・広める

### ○ 特徴・工夫点

フェスの準備はezorockだけではなく、受入地域と都市部住民の両方が参画する実行委員会方式を採用。通年の活動と3か月の準備期間に信頼関係を醸成。

## 深める

### ○ 特徴・工夫点

運営メンバー・参加者ともに顔の見える関係性を重視。「ここにいけば信頼できる人と出会える」というイベントへの安心感が積極的な参加動機へとつながった。

## つなげる

### ○ 特徴・工夫点

運営・参加者間、また参加者同士の自発的な対話が生まれるようにファシリテートすることで、イベント後に現地での活動につながるよう工夫した。

## 成功・横展開の要因

- ・ 実行委員会で丁寧に進行・調整を行い、準備段階から関係人口と受入地域の積極的な参画を促し、当事者意識と信頼関係を醸成した。
- ・ oViceを活用し、オンライン上でも参加者間の自発的な対話が生まれるよう促した。地域に入る上での具体的なポイントを事前にレクチャーするなど、円滑に現地での活動に取り組めるよう支援した。

## 今後の展望

- ・ 毎年12月のリレフェス開催を軸として、オンライン上での定期的な交流と現地活動を通じて関係を深めるという循環構造を確立・拡充していく。
- ・ 低コスト・自走可能なオンライン運営手法を活かし、各地で類似イベントの開催を支援し、フェスへの集客と担い手の確保を図る。

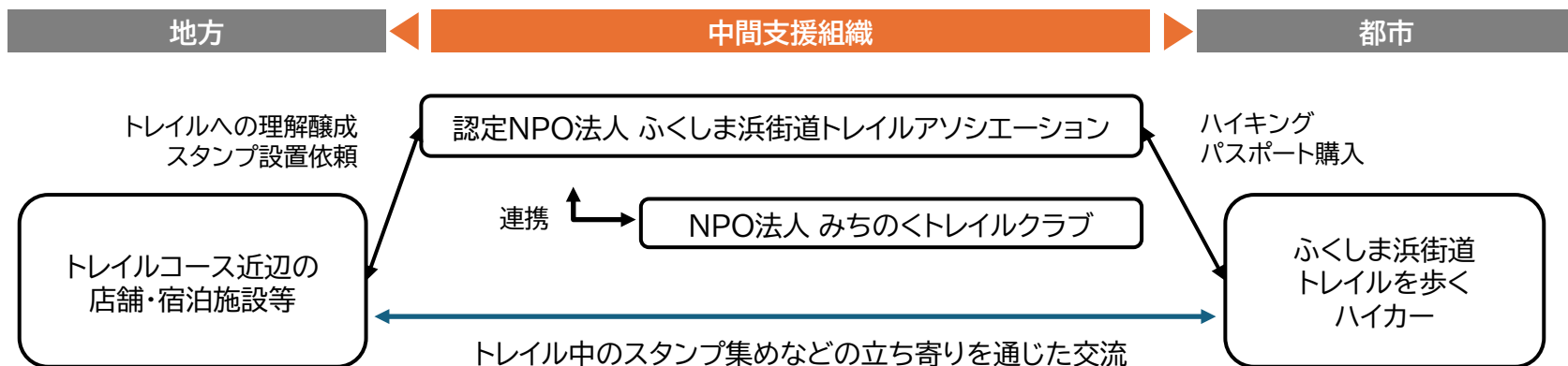
事業名	ふくしま浜街道トレイルの交流人口拡大に資するハイキングパスポート制度の立上げ
団体名	認定特定非営利活動法人 みちのくトレイルクラブ
実証地域	福島県内13市町村(新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、檜葉町、広野町、いわき市、飯館村、葛尾村、川内村)



## 事業概要

トレイルコース付近の店舗や宿泊施設でもらえるスタンプを集めることで記念品や踏破証を入手できる「ハイキングパスポート」制度を整備。同時に店舗や宿泊施設でのスタンプ設置の呼びかけを実施。「ハイキングパスポート」によってハイカーの店舗等への立ち寄りを自然に促し、地域との深い関わりを創出するモデルを構築。

### <事業スキーム>



## モデル事業後の取組成果

### 1. 事業の実施状況

令和6年度は目標であった100件のスタンプ設置ポイント(協力施設)の確保を達成。令和8年2月現在、スタンプ設置ポイントは計103件となっているほか、ホームページではモデルコースも掲載中。

### 2. 波及効果:地域にもたらされた好影響、関係人口に起こった効果

関係人口の受け皿づくり: 100件のスタンプ設置ポイントは、ハイカーの受け入れ先(受け手側)となっており、恒常的に交流が生まれている。「パスポートへの押印」「ロングトレイル」という目的を通じて、これまでは素通りされていた地域の店舗等への立ち寄りが見られる。現在、新たなハイカーに留まらず、既に歩いたハイカーもハイキングパスポートを手にとって地域を繰り返し歩きに来る機会が生まれている。

## ポイント

「パスポート」と「スタンプ」の存在が、ハイカーと地域住民の会話の壁を取り払うコミュニケーションツールとして機能。

## ハイキングパスポート制度立上げ(スタンプ設置ポイントの協力店舗獲得)から実装

### ○ 実施前段階

関係人口となる「ハイカー」が訪れるために、ルートとしての完成度(景観・安全性など)を担保。加えて、40回以上のワークショップ・勉強会などを通じて地域住民から「訪れてほしい場所」なども聞き取りコースに盛り込むことで、「地域のディープな魅力や復興への思い」の詰まった、ハイカー・地域住民双方の満足度の高いルートとして整備した。



### ○ モデル事業

13市町村の全候補店舗に対して対面で協力依頼を実施(令和6年度は100件)。福島県内でトレイル運営に携わるふくしま浜街道トレイルアソシエーション(当時は任意団体)に協力を仰ぎ、トレイルの魅力・可能性を説明し、熱意をもって依頼することで、ほぼ全店舗で前向きな協力の回答を得た。



### ○ その後

各市町村ごとに「市町村スタンプ」1つと「施設のスタンプ」を2つ以上集めることで市町村ごとの記念バッジが購入できるようになり、ルート上のすべて市町村のスタンプを集めることで踏破証を購入できるようになる。ハイカーの収集意欲を掻き立て、店舗等への立ち寄りを自然に促している。



## 集める・広める

### ○ 特徴・工夫点

地元住民にモニターツアーへ実際に参加してもらうなど「楽しい」「地域をより知ってもらえる」といった実感と共に理解を深めていった。

## 深める

### ○ 特徴・工夫点

スタンプは店舗で新たに用意する必要はなく、社判や認印など既にあるものを使用しても良い。むしろその店舗の歴史や味を感じる魅力となっている。

## つなげる

### ○ 特徴・工夫点

スタンプ設置ポイントはハイカーにとって「立ち寄っても良い場所」として認識でき、ハイキングパスポートは持ち主が「ふくしま浜街道トレイルのハイカー」とあるという証明にもなり、店舗側も安心してもてなすことができる。

## 成功・横展開の要因

- 震災後、新たな人流の生まれにくい状況であった福島浜街道地域にトレイルという目的によって人流を生み出すことができた。
- 過酷で長いロングトレイルの中での地域住民との密な交流が、旅行や日常生活には無い、地域とのつながりを生んでいる。

## 今後の展望

- 引き続き、スタンプ設置ポイントを増やすために協力依頼を継続予定。また、ハイカーと地域住民の交流の様子を記録に残し、本トレイル独自の旅の魅力として発信を行っていく。
- みちのく潮風トレイルと北側でつながる、現在整備中の八戸・十和田エリアのトレイルでも同様の取組を実施予定。

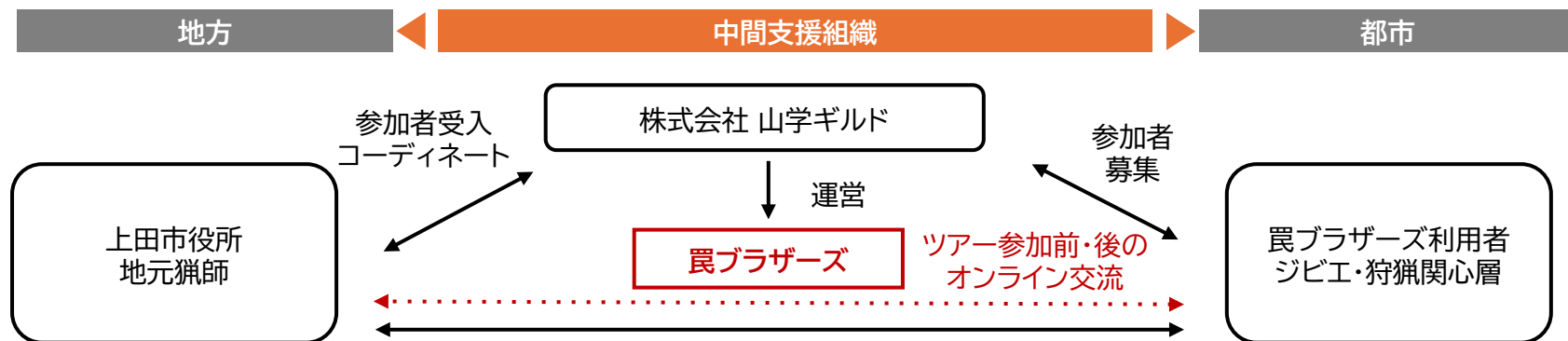
事業名	罾猟体験ツアーと罾の共同保有 ～ジビエで繋がる山と街～
団体名	株式会社 山学ギルド
実証地域	長野県上田市



## 事業概要

都市住民が獣害対策用の罾を共同保有するオンラインコミュニティ「罾ブラザーズ」を活用し、都市部のジビエ・狩猟関心層を関係人口として巻き込み、獣害対策に寄与する仕組みを構築。オンラインコミュニティと現地体験ツアーを組み合わせることで、関係人口の地域との関わりを深化させるとともに、狩猟・食肉加工の現場理解を通じて持続的な地域参画モデルを確立。

### <事業スキーム>



## モデル事業後の取組成果

### 1. 事業の実施状況

罾保有サービスはメディアでも取り上げられたことで集客は安定しており、毎回30～50名規模で実施している。体験ツアーは実施回数を月1回程度の頻度で継続。大手企業の研修(15人程度/回)も受け入れており、売上は安定的に推移している。

### 2. 波及効果:地域にもたらされた好影響、関係人口に起こった効果

ツアー参加者からは「狩猟免許を取得した」「上田を再訪問した」「上田に移住した」といった声が複数ある。また、ツアー参加後にオンラインコミュニティに参加している方は定期的な交流を続けており、時折上田に来ている方も多い。ツアー参加者と共同で仕事を行った実績もあり。地域側では、提携猟師数は当初の2名から20名弱に増え、地域住民と関係人口との接点の拡大に貢献。ツアーの参加者と話をできる機会が有害鳥獣駆除のモチベーションになっている猟師や、罾ブラザーズとの連携をきっかけに辞めていた地域全体で有害鳥獣駆除を復活させた地域もある。

## ポイント

オンラインコミュニティと現地体験ツアーの掛け合わせにより、現地への導線と関わりの深化モデルを構築。

### 都市部のジビエ・狩猟関心層の関係人口化、地域の担い手化

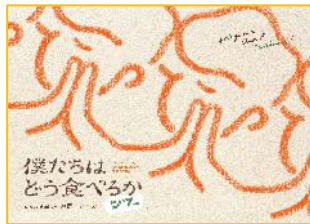
#### ○ 実施前段階

都市部のジビエ・狩猟関心層を関係人口として巻き込み、獣害対策に寄与する仕組みを構築。都市住民が獣害対策用の罠を共同保有することで、狩猟・食肉加工プロセスを体験しながら狩猟現場を支えるオンラインコミュニティ「罠ブラザーズ」を運営。



#### ○ モデル事業

罠の保有だけでなく、狩猟の現場とプロセスを体験するツアーを開催。都市住民に獣害を背景とした狩猟やジビエといった地域の課題に対する理解を深めてもらい、同時に地域の魅力を伝えることで、地域との持続的な関わりの創出を図る。



#### ○ その後

企業ニーズも取り込みながら順調に発展。地域内外でのイベント開催や猟師との提携拡大など、着実に認知を広げるとともに、上田市役所と連携してジビエの消費促進コンソーシアムを設立。また、越境学習として注目され、企業研修の一環としても実施。



## 集める・広める

#### ○ 特徴・工夫点

都市部のジビエ・狩猟関心層に広く訴求するデザインを採用し、潜在的な関係人口を取り込む。

## 深める

#### ○ 特徴・工夫点

狩猟・食肉加工に携わる当事者と直接交流し、関わりを深めるとともに、オンラインでは伝えきれない信州の自然環境の魅力を体感的に理解する機会を提供。

## つなげる

#### ○ 特徴・工夫点

行政との連携を強化しつつ、企業研修用のカスタムプランを用意することで、事業としての持続可能性を強化。

## 成功・横展開の要因

- ・ 現地ツアー等の活動を通じ、地元猟師など協力者が増加。取組の公的価値から、自治体の協力も得て地域ぐるみの活動へ発展。
- ・ 「食」のテーマにより幅広い層を取り込み、東京からのアクセスや都市住民に響くデザインが集客を後押しした。グッドデザイン賞受賞やメディア紹介によって一般の認知も高まった。

## 今後の展望

- ・ 経験・知見が溜まってきていることを活かし、企業研修やツアーの受け入れ件数を増やすことで、利益増加に努める。
- ・ オンラインコミュニティのモデルを刷新し、ユーザーを累積的に増やしていける形へと移行させることで、関係人口を増やす。
- ・ 上田市との連携を活かし、半公共・半民間的な取組によって、地域の課題解決と未来づくりを一気通貫で進める。

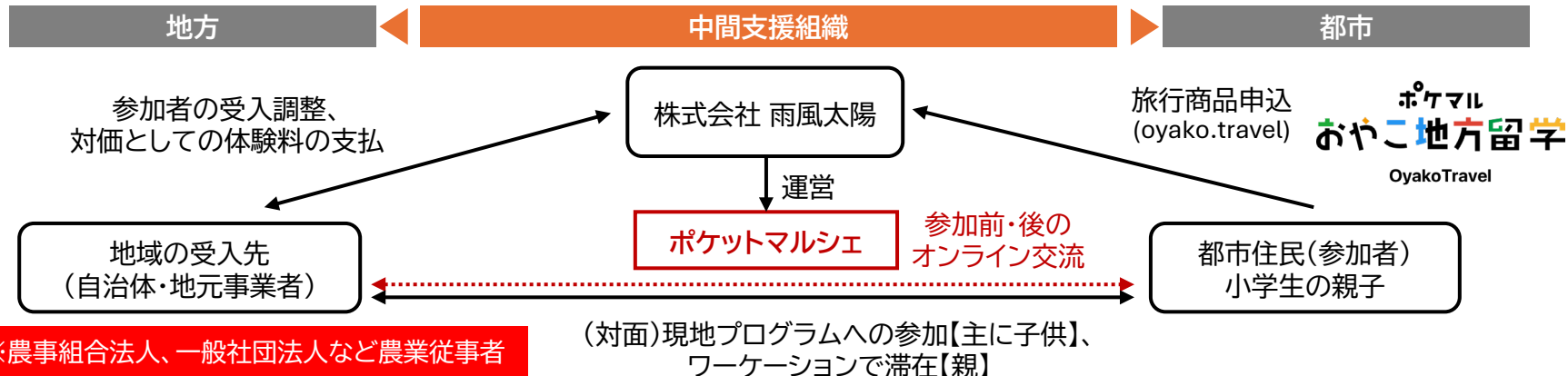
事業名	親子を主体にした短期複数回往來型の農的関係人口創出モデル事業
団体名	株式会社 雨風太陽
実証地域	岩手県花巻市(東和地区・南笹間地区・上根子地区)、遠野市(綾織地区)



## 事業概要

産直EC「ポケットマルシェ」を活用し、都市部の親子向けに現地滞在型の一次産業体験プログラム「ポケマルおやこ親子地方留学」を提供。現地訪問だけでなく体験前後のオンライン交流を組み合わせることで継続的な交流につなげるとともに、交流した生産者の商品購入等への導線をつくることで、モノとコトの両面から生産地と消費地に橋を架けるためのモデルを構築。

### <事業スキーム>



## モデル事業後の取組成果

### 1. 事業の実施状況

(※(株)雨風太陽のサービス利用データより算出した2025年6月時点の数値。3人家族が1泊2日の行程を経た場合、3×2=6日とカウント。なお、別事業(例:STAY JAPAN)での成果も含まれる。)

年度ごとに受入数も増加し、事業4年目となる2025年は187組の家族が参加した。さらに実証地域の他、北海道、山形、和歌山、広島、福岡、長崎でも事業展開している。事業開始以来4年超の期間で、「都市と地方を往來して過ごした日数」として9,103日\*の農的関係人口を創出した。事後のアンケート調査において「また行きたい」と回答した親子は9割であり、うち2割から3割程度が再び親子地方留学を申し込んでいる。

### 2. 波及効果:地域にもたらされた好影響、関係人口に起こった効果

子供達から届く自由研究の報告は、生産者にとって大きな励みとなり、日々の生産活動を続けるうえでのモチベーション向上につながっている。また、住民が当たり前だと思ってきた地域の日常(例:庭で飼育しているニワトリ)に、親子が新鮮な驚きを示すことで、その価値を改めて認識でき、地域への誇りを育む契機となっている。教育面では、子供達の夏休みの自由研究の題材として活用されているほか、保護者にとっても「普段と異なる食材を使っている」ことに気づく機会となり、食育を考えるきっかけにつながっている。

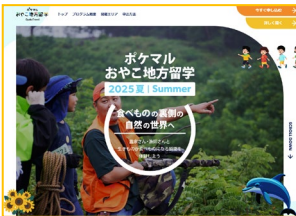
## ポイント

体験活動の前後のオンライン上での交流が関係の深化を促し、地方留学を一度切りの出会いで終わらせない仕組みづくり。

### 一過性のイベントで終わらせないためのスキーム

#### ○ 実施前段階

「ポケマルおやこ地方留学」ウェブサイト「oyako.travel」(モデル事業では産直EC「ポケットマルシェ」)を活用し、旅行商品として参加者の募集を行った。申込後には、オンライン上で申込者と現地の生産者が事前に交流できる仕組みを整備した。



#### ○ モデル事業

3泊4日※の行程にて、親子が現地を訪問し、子供達がアクティビティや生産者との交流を楽しむ。(※現在のプログラムでは6泊7日)

<プログラム例>

・ニワトリと触合い、地域の日常を体感  
・川に入り魚を捕まえ、自分で捌き郷土料理に調理して食べる など



#### ○ その後

現地での宿泊プログラム終了後も、約9,000名の生産者が参加する産直EC「ポケットマルシェ」での商品購入や「ポケマルふるさと納税」により生産者と直接交流ができる仕組みを用意することで継続的なつながりや再訪につなげていく。



## 集める・広める

#### ○ 特徴・工夫点

オンラインでの事前交流により、現地で行えることやお互いの人となりをすることで参加前の不安を解消し、関わりを深める準備を行うことができる。

## 深める

#### ○ 特徴・工夫点

子供達が楽しむ姿を見て、生産者も喜びを得られる。参加者を複数回受け入れることで、何気ない日常の価値に気づき、体験料として対価も得られる。

## つなげる

#### ○ 特徴・工夫点

生産者と関わりを持ちながら引き続き「買って支援」できる手段を提供している。家族の夏の思い出づくりとして、親子地方留学のリポートを生んでいる。

## 成功・横展開の要因

- ・ 会社の事業拡大として組織的に経営資源を投入し、メディア取材対応、地方創生に関するイベントへの出展などの情報発信を仕掛けた。
- ・ こうした情報発信を通じて「地方に関心のある家族連れの情報を持つ企業」として自治体に認識されたことで、委託事業のオファーを受けた。

## 今後の展望

- ・ 参加者を長期的に定点観測して、参加者の行動や意識がどう変化したのか、関係人口側からみた体験の価値は何かを見出すこと。
- ・ 子供を受け入れる際の対応方法や、子供達と触れ合った際に生まれた喜びの声など、受入の現場で得られた経験を地域全体で共有し、蓄積すること。

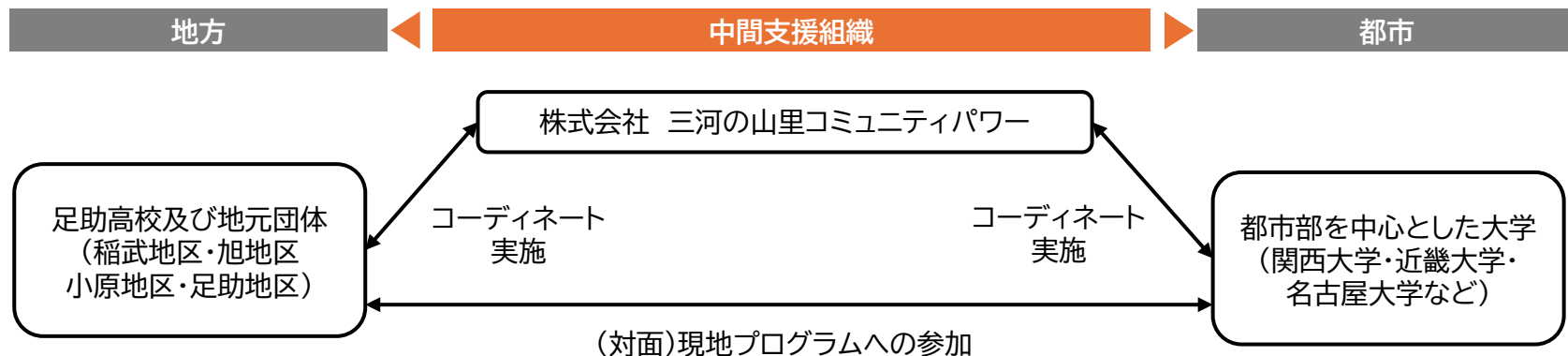
事業名	おたがいさま人づくりプロジェクト
団体名	株式会社 三河の山里コミュニティパワー
実証地域	愛知県豊田市



## 事業概要

電力の小売事業や再生可能エネルギーの普及促進などを手掛ける株式会社三河の山里コミュニティパワーが「おたがいさま人づくりプロジェクト」として、地域住民と地元高校生、都市部大学生の3者が協働する「地域課題の探究」をテーマにしたツアーを実施することにより、関係人口の定着を目指すとともに、再生可能エネルギーが循環する地域づくりを推進。

### <事業スキーム>



## モデル事業後の取組成果

### 1. 事業の実施状況

地域探究ツアーに参加する関係人口の数は計画時は80人だったが、最終的なべ参加者数は162名となった(ただし一部に地域団体関係者など非都市圏からの参加も含まれる)。また、地域探究ツアー参加者の地域への継続関与率は正確に測定されていないが、参加者もしくは団体関係者とは継続的な協働のほか、移住や新規雇用に至る事例など、事業終了後も連続して関係が深化する例が生まれている。

### 2. 波及効果:地域にもたらされた好影響、関係人口に起こった効果

地域側では、受入れの取組を通じて地域への愛着が高まり、今後も都市部から若手を受け入れたいという声が一層強まっている。さらに、関係人口事業のツアーで講師として連携していた福祉団体の社員2名が本事業を契機に移住した事例も生まれている。加えて、継続的に伴走支援を行っている集落では、大学生が支援に加わるケースが見られ、これが近隣都市部(名古屋市域等)における新たな関係人口の創出につながっている。大学生にとっては、研究フィールドの獲得につながるとともに、自らの知見を地域に共有する機会にもなっており、こうした相互交流が継続的なファンづくりに寄与している。

### ポイント

既存事業を土台とした地道な取組による地域と中間支援者の「おたがいさま」を関係人口へと繋げ、広める。

### 「おたがいさま人づくりプロジェクト」の実践

#### ○ 実施前段階

再エネ事業を主軸にしながらも、これまでに健康見守り・移動支援・お出かけ促進など、多様な地域支援事業を展開している。また、再エネ販売による利益の地域還元にも取り組み、地域住民とのネットワークを継続的に築いてきた。こうした取組の積み重ねが、地域との「おたがいさま」の関係づくりにもつながっている。



#### ○ モデル事業

農作業体験のフィールドワークや小水力発電のワークショップを通じて、近隣の大学生や地域の高校生との交流が生まれ、参加者の高い満足度や自主的な地域活動への発展に繋がった。地域側でも受け入れを通して地域への愛着が深まり、今後も都市部から若手を受け入れたいという声が強まっている。



#### ○ その後

事業で関わった大学生が継続的に地域に入り、身近な生活サポート(スマートフォンの使い方指導など)を行っている。また、お米を買いたいといったファンも増え、学生の活動は近隣地域へと広がり始めている。こうした地道な取組により、近隣にも「おたがいさま」の輪が波及している。



### 集める・広める

#### ○ 特徴・工夫点

地域支援事業を契機に足しげく地域に通い、地域の困りごとなどのニーズを把握することで信頼関係を構築した。

### 深める

#### ○ 特徴・工夫点

継続的に地域に通いやすい近隣の大学(名古屋圏)を主なターゲットとした関係人口の取組を行い、来訪回数を増やすことで濃い関係人口づくりにつながった。

### つなげる

#### ○ 特徴・工夫点

地道な取組を無理なく続けていくことで地元ファンの継続的な増加につながっている。

### 成功・横展開の要因

- 地域内での関係づくりや困りごとを解決したいという思いから、地域貢献事業に継続して取り組んでいたことが、受け入れ地域のモチベーション向上につながった。その結果、ツアー自体の質が高まり、こうした好循環を見た同市の近隣地域にも取組が広がった。

### 今後の展望

- 引き続き近隣の都市圏をターゲットとして関係人口を増やしていく。
- 元々は地域課題解決のために始まった事業であり、電力事業から拠点づくり、教育、農業、交通、福祉等も関連させながら、中山間地域の課題解決をさらに進め、相乗効果を生み出していきたい。

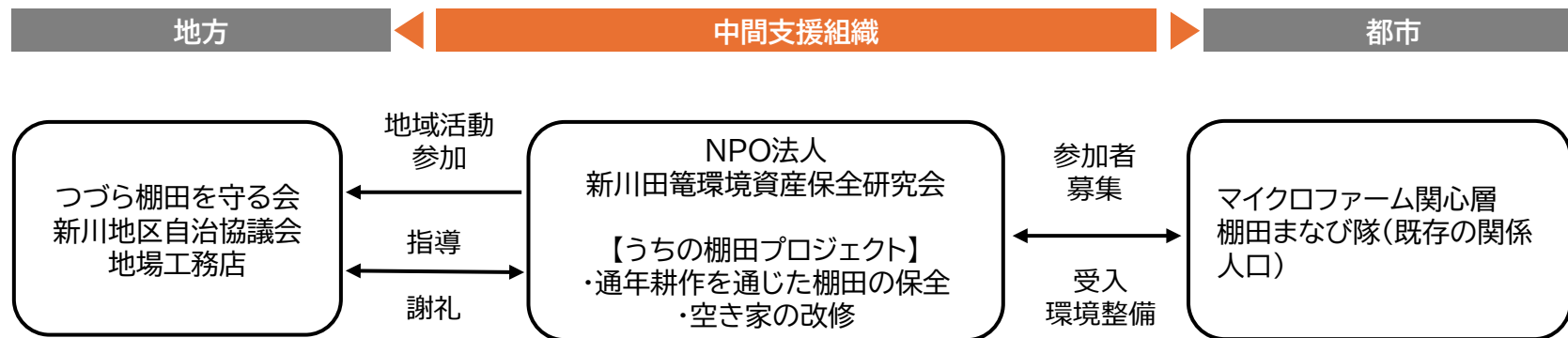
事業名	棚田とマイクロファーム層とのマッチング事業を通じた関係人口の創出と強化
団体名	特定非営利活動法人 新川田箆環境資産保全研究会(RAS研究会)
実証地域	福岡県うきは市



## 事業概要

地元の地域団体・行政・関係人口が連携して進める棚田保全の取組。狭小で耕作に手間を要する棚田と、自分でお米をつくりたい関係人口(都市部のマイクロファーム層)のニーズを結び付け、通い農によって棚田を維持する「うちの棚田」プログラムを構築。また、関係人口の訪問機会の増加に合わせ、受入環境整備として空き家の拠点施設への改修も進むなど、継続的な活動へと深化している。

### <事業スキーム>



## モデル事業後の取組成果

### 1. 事業の実施状況

ワークショップ参加者数(のべ50名以上)、地域の共同作業への参加者数(のべ5名以上)、「うちの棚田」申込者数(3組)を達成。翌年以降も順調に推移している。また、関係人口の人数・属性については定期的にモニタリングにて調査を行っている。

### 2. 波及効果:地域にもたらされた好影響、関係人口に起こった効果

本取組等を通じて美しい農村景観を維持するとともに、地域の周辺美化活動にも参加することで関係人口と住民との相互理解が深まった。また、関係人口が、耕作放棄や空き家問題など地域が抱える現実を体感し、課題に向き合う姿勢が育まれ、再訪にも繋がっている。モデル事業時は獣害を受けたが、次年度は改良し大収穫を得ることができ、取組継続の意欲が高まっている。

## ポイント

関係人口の「量」より「質・深さ」を重視。地域景観の回復・維持とコミュニティの再生を主たる価値と捉えてかかわりしるを設計。

### 棚田維持のリアルに共に向き合い、関係を深めるとともに、活動基盤の整備を行う

#### ○ 実施前段階

1枚の棚田を参加者(都市部のマイクロファーム層)のみんなで耕作するプログラムを計画。年間を通じた取組へと発展するよう、地域への説明など、準備を進めた。

また、併せて来訪者の拠点となる空き家改修についてもプランニングを開始した。



#### ○ モデル事業

地元の方に指導を受けながらの作業。日常の管理作業は各回2~3名、草刈りや稲刈りは5~6名が参加した。最終的には「景観が良くなった」と地域からも評価された。

また、作業の過程では水不足や獣害に阻まれることもあったが現場での奮闘が関係人口のやりがいに繋がった。



#### ○ その後

関係人口の拠点となる施設をつくるべく、ワークショップ形式で空き家を整備。計3回のイベントを実施し、平均して10名以上の参加があった。床張りや漆喰塗り、交流広場の整地など、協働で作業をすることで双方が地域への愛着を深めるきっかけとなった。



## 集める・広める

#### ○ 特徴・工夫点

マイクロファーム層という新たな関係人口を取り込むプログラムを計画しつつ、復田作業等を通じ、既存の関係人口である「棚田まなび隊」や都市の学生との関わりの深化を図った。

## 深める

#### ○ 特徴・工夫点

日々の活動をしている姿を見せることで、地元での認知が深まっていく。また、水不足などのリアルな課題と直面することで、助け合いの関係性が生まれた。

## つなげる

#### ○ 特徴・工夫点

ワークショップは地域住民と参加者が協働のかたちで行い、地域課題に共に向き合うことで、お互いの関係性が深まっていった。

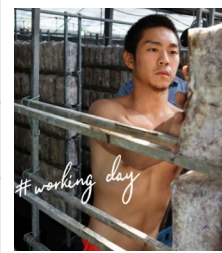
## 成功・横展開の要因

- ・ 地域住民を巻き込み、活動の様子が見えるかたちで進めることで、取組への理解や共感を着実に広げていった。
- ・ 関係人口を受け入れるための拠点整備も並行して進め、参加者が地域と関わりやすい環境を整えることで、次のステップにつながる意識づけや活動基盤のデザインにも取り組んだ。

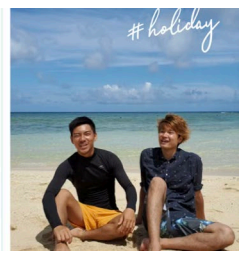
## 今後の展望

- ・ 収穫および収穫祭の実施を目標に、必要最小限の維持管理を行いながらプロジェクトを継続。参加者1組につき棚田1枚を割り当てることで、「うちの棚田」としての主体的な関わりをより深めていく。
- ・ 地域行事に合わせたイベントの企画や拠点施設の宿泊利用についても準備を進める。

事業名	旅するノマドファーマーズ ～フリーランス農家×沖永良部島での援農体験～
団体名	えらぶ島づくり事業協同組合
実証地域	鹿児島県和泊町、知名町



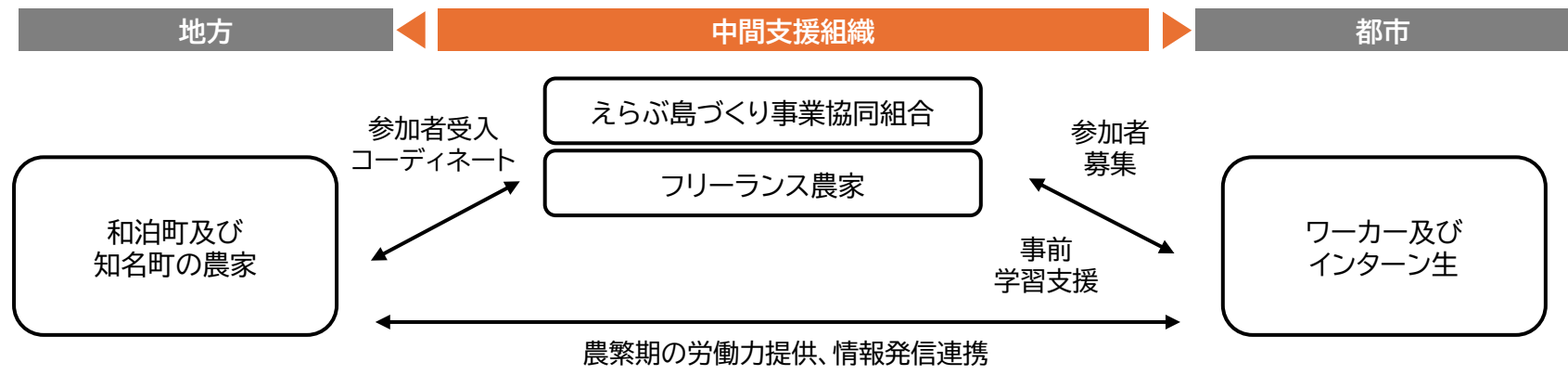
おきのえらぶ島  
島  
W  
O  
R  
K



### 事業概要

えらぶ島づくり事業協同組合とフリーランス農家が協業し、農繁期の人手不足に悩む農家の支援と関係人口の創出を目的とした事業。都市部等の大学での講義などを通じて関係人口となる参加者を集めて島内で農業インターンシップを実施することにより、複数農家で援農に従事して地域と交流する仕組みをつくとともに、その後の地域との多様な関係につながるモデルを構築した。

### <事業スキーム>



### モデル事業後の取組成果

#### 1. 事業の実施状況

「人手不足に悩む農家の労働力不足解消」については、令和6年度中に求人枠45人中43人を確保し、充足率96%を達成。SNSフォロワー数・援農モデルツアーに関する指標についても目標を達成し、現在も継続的に確認している。

#### 2. 波及効果: 地域にもたらされた好影響、関係人口に起こった効果

農家の労働力不足の解決にコミットしており、島外から訪れたワーカーがその後移住するケースも見られる。そのほか、繁忙期と閑散期で人材を融通し合う産地間連携の取組に向けた動きが広まり、中間支援の輪も拡大しつつある。また、関わりを通じて地域内に外部人材を受け入れるための意識の醸成や体制の構築につながっている。

## ポイント

目的は一貫して「農家の労働力不足解消」。関係人口の創出は手段としつつ、援農募集から農家からの求人充足への導線を設計。

農業現場の課題をストレートに伝え、目的意識を共有した上で持続的な関係を構築

### ○ 実施前段階

大学での講義を通じて、フリーランス農家の働き方や沖永良部島の暮らし、農業の魅力を発信するとともに、農繁期に援農を行いながら地域と関わる農業インターンシップの内容を紹介し、参加者の掘り起こしと関心の喚起を行った。



### ○ モデル事業

島内において農業インターンシップを実施し、参加者が複数農家に分かれて農繁期の援農に従事する仕組みを構築した。併せて、関係人口には夜間の交流や最終報告会に参加してもらい、地域住民や事業者、行政と意見交換を通じて援農の魅力や課題への理解を深めた。



### ○ その後

関係人口と地域間に継続的な関係性が構築され、関係人口による特産品のPRや情報発信など、新たな関わりも生まれている。さらに、他の産地との交流も広がり、実際の訪問やリモートでの打合せ等を通じて、連携体制の構築へとつながっている。



## 集める・広める

### ○ 特徴・工夫点

インフルエンサーと連携することによって都市部などの関心層へ効果的にリーチ。

## 深める

### ○ 特徴・工夫点

ミスマッチを防止するため、面接では厳しい側面もあるという「リアル」を伝える。のどかな島暮らしよりも「仕事」としての農業を伝え、人材の定着につなげている。

## つなげる

### ○ 特徴・工夫点

人材シェアに対する意欲の高い中山間地の方々や中間支援者と繰り返し議論し、横展開へとつなげた。

## 成功・横展開の要因

- ・ 農家の労働力不足の解消を主目的に据えることで地域と関係人口のミスマッチを防止。目的意識を共有した関係構築が可能となった。
- ・ 明確な目的設定により、産地間の繁忙期のずれを活かした産地間連携にも取り組みやすく、事業の横展開や規模拡大を見据えたモデル構築を進めることができた。

## 今後の展望

- ・ 北海道や京都など他地域とも連携し、異なる農繁期に人材を融通し合う仕組みづくりを進行中。
- ・ フリーランス農家による情報発信を強化し、援農人材の裾野拡大を図るとともに、SNSを活用した人材登録の仕組みを構築していく。
- ・ 引き続き産地間での連携や受入体制の改善等を進めていく。

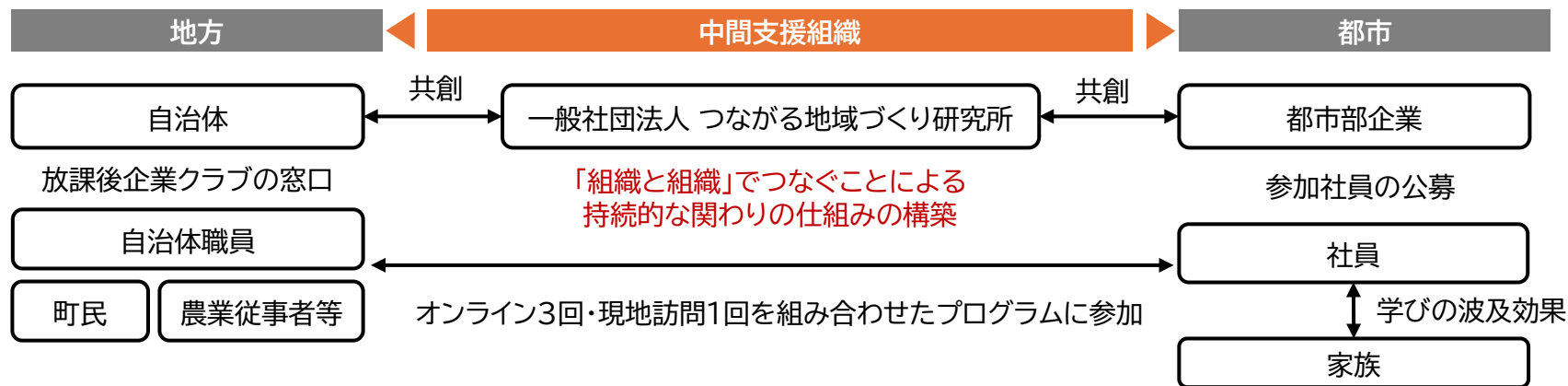
# 放課後 企業クラブ

事業名	都市部の大手民間企業人材が地域とともに学び関わり続けるしくみ『放課後企業クラブ』の社会課題解決モデル構築事業
団体名	一般社団法人 つながる地域づくり研究所
実証地域	北海道北竜町、奈井江町、静岡県南伊豆町

## 事業概要

都市部の企業人材と地方自治体・地域を「組織と組織」でつなぐ枠組み「放課後企業クラブ」を通じ、地域の課題に混成チームで取り組むプログラムを開発。自治体職員や地域住民、生産者等と企業人材が協働しながら課題を整理・検討するプロセスを通じて、企業人材が副業として継続的に地域に関与する仕組みを構築し、関係人口の創出、関わりの深化につながる実践的なモデルを確立した。

### <事業スキーム>



## モデル事業後の取組成果

### 1. 事業の実施状況

継続的に関わりたいと考える参加者の割合(80%)、副業・兼業としての参画マッチング成立件数(2件)についてすべて達成し、現在は計24自治体で70以上のプログラムを実施し、5社、延べ企業人材数500名以上となっている。

### 2. 波及効果:地域にもたらされた好影響、関係人口に起こった効果

「組織と組織」をつなぐプログラムを構築したことで、関係人口個人との関係にとどまらず、企業と自治体がタッグを組む、より強固で持続性のある関係性が形成された。その枠組みがあることで、参加する企業人材一人ひとりとの関係も継続的に深まり、個人レベルでの関与の質の向上にもつながった。

## ポイント

関係人口を「組織と組織」でつなぎ、途切れにくい関係性をつくる。関係人口が企業内で案内人となるモデルの構築。

## 「放課後企業クラブ」モデルの構築と実践

### ○ 実施前段階

都市部の大手民間企業と地方自治体を「組織と組織」で結びつける枠組みとして「放課後企業クラブ」を設計・開発した。地域ごとに「食と農」をテーマとする課題を設定し、混成チームで取り組む社会課題解決型プログラムとして全体構成を整理した。



### ○ モデル事業

自治体職員、地域住民・生産者、企業社員による混成チームを編成し、現地視察や農作業体験、意見交換を実施した。地域課題の背景や構造を共有しながら、解決に向けたアイデアや取組の方向性について検討を行い、特産品を活用したふるさと納税額の増加等を目指した。



### ○ その後

これまで5社・のべ500名以上の企業人材が参加し、24自治体で70件のプログラムを実施。個人面談を通じて主体的に関わる意向のある人材を抽出し、再マッチングすることで、副業として地域と協働する体制を構築。



## 集める・広める

### ○ 特徴・工夫点

事業の前提整理として、都市部企業向けのセミナーやオリエンテーションの開催等により、参加社員のみならず企業単位で地域課題への理解を醸成した。

## 深める

### ○ 特徴・工夫点

現地観察・対話・小演習を交えた導入的プログラムで「慣れ」を形成。運営が誤解や摩擦の芽を早期に可視化することにより議論の軌道を修正。

## つなげる

### ○ 特徴・工夫点

地域活性化としてだけでなく、都市部企業の人事制度にも影響を与え、地域との交流に前向きになっている。







## 成功・横展開の要因

- 都市部企業と自治体を個人ではなく「組織と組織」で繋いだことで、参加の正当性や継続性が担保された。また、混成チームでの体験や議論を通じて課題の背景理解が深まり、「共創」の関係が生まれた。
- 参加者の関与度に応じた無理のないステップアップを構築した。

## 今後の展望

- 本事業を基盤として、企業・自治体からの参加費を主な収入源とする運営体制を確立し、横展開可能なモデルとして拡大中。
- 副業として参画する企業人材に対しては、中間支援組織が自治体や地域関係者との協働を支援しながら関係人口の創出や関わりの深化につなげる取組として発展させていく。

# 本事例集の掲載事例一覧

NO.	団体名	事業に関するキーワード	モデル事業実施報告書URL	
1	特定非営利活動法人 ezorock	オンラインでの交流	<a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r3-04_ezorock.pdf">https://www.chisou.go.jp/so usei/about/kankei/pdf/r3- 04_ezorock.pdf</a>	
2	認定特定非営利活動法人 みちのくトレイルクラブ	ロングトレイル・ ハイキングパスポート	<a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r6_05_michinokutrailclub.pdf">https://www.chisou.go.jp/so usei/about/kankei/pdf/r6_05 _michinokutrailclub.pdf</a>	
3	株式会社 山学ギルド	獣害対策・ジビエ・罟・狩猟免許	<a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r4ho-14_sangakuguild.pdf">https://www.chisou.go.jp/so usei/about/kankei/pdf/r4ho- 14_sangakuguild.pdf</a>	
4	株式会社 雨風太陽	農業/漁業体験・食育・ 親子・産地とのつながり	<a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r4-01_amekaze.pdf">https://www.chisou.go.jp/so usei/about/kankei/pdf/r4- 01_amekaze.pdf</a>	
5	株式会社 三河の山里 コミュニティパワー	地域課題・小水力発電・学生	<a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r5_06_mikawanoyamasatocommunitypower.pdf">https://www.chisou.go.jp/so usei/about/kankei/pdf/r5_06 _mikawanoyamasatocommuni typower.pdf</a>	
6	特定非営利活動法人 新川田籠環境資産保全研究会	棚田・農作業・ コミュニティの再生	<a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r6_03_niikawatagomori.pdf">https://www.chisou.go.jp/so usei/about/kankei/pdf/r6_03 _niikawatagomori.pdf</a>	
7	えらぶ島づくり事業協同組合	農業支援・労働力不足解消・ 特定地域づくり事業協同組合	<a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r5_02_erabushimadukuri.pdf">https://www.chisou.go.jp/so usei/about/kankei/pdf/r5_02 _erabushimadukuri.pdf</a>	
8	一般社団法人 つながる地域づくり研究所	副業/兼業・都市部企業・ 研修・スキル活用	<a href="https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kankei/pdf/r4ho-10_tsunagaruchiikidukurikenyuusyo.pdf">https://www.chisou.go.jp/so usei/about/kankei/pdf/r4ho- 10_tsunagaruchiikidukuriken kyuusyo.pdf</a>	